

今回の超巨大地震による津波に対する考え方

西田 良平 (H23-03-12)

「山陰地方への津波の影響」について

- 太平洋日本海溝で発生した超巨大地震による津波が「山陰地方」まで影響を与えたことは予想外であった。
- 日本海まで影響を与えたメカニズムについては、詳細な解析が必要であるが、津軽海峡から津波が伝播し、日本海に拡がって行ったと考えられる。
- 津波は日本海に拡大すると、タラップされ、繰り返し日本海を縦横に伝播する。長時間減衰しないで、津波が押し寄せることが考えられる。
- 日本海海底で発生した「1993年北海道南西沖地震」の例が1つの事例
- 今回の津波の周期はまだ分からないが、長周期の波長が主と考えられる。日本海を減衰せず、長時間に渡って行き来することが考えられる。
- 津波は、波が干渉して、突如波高が高くなることがあるので、気を緩めない。
(直接波だけでなく、反射波・屈折波があり、複雑に重なり合う)

長時間の警戒・監視体制が必要：

**直接被害が出るような津波になるか分からないが、水位の上昇・下降が比較的長周期で繰り返すことが想定される。
時には、波高が高くなる場合がある。**